

令和6年度第1回市貝町学校規模適正化検討委員会会議録

1 日時

令和6年7月25日(木)

午後6時00分 開会

午後7時50分 閉会

2 場所

市貝町役場 大会議室

3 出席者

小森教育長、別紙名簿のとおり

4 議事

- (1) 市貝町学校規模適正化検討委員会の趣旨説明
- (2) 市貝町立小中学校の現状について

5 議事の内容

1.閉会

川上課長(進行)

2.教育長あいさつ

小森教育長【あいさつ】

3.委員長・副委員長選出

委員の互選により委員長に 佐藤栄治 委員、副委員長に 松岡 あゆみ 委員が選出された。

4.議事内容 議事進行：委員長

○議事内容(1) 市貝町学校規模適正化検討委員会の趣旨説明。

委員長

議事内容の第1「市貝町学校規模適正化検討委員会の趣旨説明」を議題といたします。

事務局より説明をお願いいたします。

事務局

【事務局説明】

委員長

事務局より説明があったが、ご意見・ご質問があったら、お聞きしたい。

委員

安全安心の観点からになりますが、今、自然環境が変わってきている。そのため、豪雨や暑さなど環境に対応するために学校の環境を整える必要がある。特に空調設備や夏場の通学路の雑草が伸び視界の妨げになり安心安全が脅かされている。

委員

自分の子どもに限ってだが、怖い思いや小中学校の空調に関して暑い・熱中症で倒れた子がいるとは聞いていない。老朽化してもある程度の対策を取っていただいていると思う。これ以上のことは予算のこともあり、話し合いが必要。

委員

長寿命化計画に各学校の劣化が載っており、赤羽小に劣化が見られるのは事実だが、緊急ではあまりないと思う。もしも、直すにしてもお金が掛かるので、統合を待ってから考えた方が良くはないか。

委員

各小学校の子供の数のバランスが悪い、北部が少なく南部も少なくなっている。中部は、みどりの森のおかげで増えている。地域のコミュニティが増えた影響で市貝小は校舎が狭くなってきている。建物に関しては各学校によっては、空き教室があったり、逆に余裕がない状況と様々。最近では、プールが熱すぎて入れない状況になってきている。そう考えると屋外のプールは厳しくなっている。赤羽小のプール底面の塗装が剥けていると話を聞いた。中学校は外部委託にて、プール授業を行っている

委員

プールの建築から50年たって老朽化している。全国的に問題になっている。

—————協議事項(1) 終了—————

○議事内容(2) 市貝町立小中学校の現状について

委員長

議事内容の第2「市貝町立小中学校の現状について」を議題といたします。事務局より説明をお願いいたします。

事務局

【事務局説明】

委員長

事務局より説明があったが、ご意見・ご質問があったら、お聞きしたい。

委員

老朽化が進んでいると感じる。どこかが統廃合しないといけない。最初に委員長が言っていたように何十年先を見据えたとき統廃合が必要。

委員

毎年校舎トイレ洋式化や LED の工事を行っているが長寿命化の工事をしていないため、いずれ長寿命化の工事をした際に多くの予算が必要になってくる。

委員

建物を新しくしたら、運営面のコストを下げるができる。そういったことを行うことが必要。スクールバスの運行状況で多くの人が見えているのが見えるが、住宅から学校までの通学路の配慮が必要。

委員

現状 3 つの小学校の人数バランスが悪い。今後の人口減少を考えると、統廃合が必要だと思う。ただそうなった際は、バスの運行費用が増える。

委員

40年の建築物は長寿命化と言っても60年は厳しい。7、8月猛暑となり体育館でスポーツをしているが空調がない。隣の町は、来年エアコンが入ると聞いている。財政的に厳しいが、夏に授業をするのならエアコンが必要。他の町もそのような動きをしているので、当町も同じ動きをしていかないと遅れてしまう。この委員会は、いかにランニングコストを下げ子供たちに快適な状況を提供できるか考えていかなければならない。教育は、他の町との競争。環境を整えれば保護者が来る。財政的な問題があるのは分かるが、エアコンはそろそろ入れてもいいのではないかと思う。

委員

統廃合ありきなのはわかっている。地域のことを考えると公共施設で最後まで残るのが学校。学校がなくなってしまうと我々世代がそこに家を建てる意味を失ってしまう。今後の町全体の都市起こしデザインを考えていかないと反対運動が始まってしまう。はっきり言うとどう統合するか。どこを統合するか。進め方をどうするのが意見となってくる。

委員

教育環境の整備を整えることが一番必要。テレビの中でシャッター街の店舗に塾を作ると若い人が来ると取り上げられていた。若い人に移住をしてもらうためには、教育環境の整備がこれから必要。他の委員も言っていたように、中学校の体育館のエアコン設置要望が親子から上がってきているため一般質問させていただいた。赤羽小で小さな羽の扇風機しかないため後援会費から扇風機を買っていいかと聞かれた。今年の夏は異常な暑さだが、暑さ対策も環境整備のうえで大切。小中一貫校にした方がコスト面でよいが、その学校を卒業された地域の方の小学校を無くさないでほしいという気持ちもあると思う。そのため統廃合を簡単に決めることはできない。

委員

この委員会の目的、方向性が良く見えない。子ども人口を増やすのか、学校の環境を整えるのが目的なのか。統廃合をするのなら広い範囲から子供が来るため道路の整備等

予算の確保が必要。スクールバスの運行状況のばらつきに関しては小貝、市貝は地域が広く、赤羽は密集しているなどを考えなければいけない。

事務局

一番は、学校が誰のためのものかという通っている児童生徒のもの。教育を考えたとき統廃合が出ているが、子どもが幸せになる手段の一つだと考えている。コストダウンをして他に充てるのが幸せなのか。統廃合をすればその地域の学校はなくなる。核となる学校を残しておくのか、統廃合してコンパクトにするのか。それぞれの立場等、変わってくると思うが、落としどころを見つけていきたい。何が一番いいのかを皆さんに決めていただいて教育委員会に提言をいただきたい。

委員

資料の中に児童の推移が載っているが、全校生徒数しか載っていない。入学生は何人なのか載っていると良い。複式になる前に統合するのかもしれないのか決めていければよい。

事務局

令和6年	市貝小学校	36人	赤羽小学校	24人	小貝小学校	5人
令和7年	市貝小学校	42人	赤羽小学校	14人	小貝小学校	11人
令和8年	市貝小学校	45人	赤羽小学校	21人	小貝小学校	9人
令和9年	市貝小学校	45人	赤羽小学校	8人	小貝小学校	8人
令和10年	市貝小学校	33人	赤羽小学校	15人	小貝小学校	6人
令和11年	市貝小学校	40人	赤羽小学校	8人	小貝小学校	6人

となります。

委員

複式は何人でクラスになるのか

事務局

2学年16人以下になります。

委員

建物が老朽化しているのであれば統廃合が必要になってくるが、大勢になることによって子供のメンタルの問題が出てくると思う。一人ひとり対応する必要がある子がたくさんいる。特に、小貝小学校の様な小さな学校の子のメンタルが大丈夫か心配です。市貝小も今は多いがみどりの森の子が卒業したら少なくなっていく。統廃合をして無駄にならないか。子どもたちの気持ちが心配。

委員

昨年千葉へ研修に行ったが、千葉では統廃合で「現状でもいいのでは」となり、統廃合しなかった。子ども達の学級編成が子ども達に心理的に圧迫感を与えている。小さい学校で1クラスしかなく6年間ずっとお友達だよというのもいいけれど、最低2学級ないとクラス替えできない。クラス替えできると安心感がある。

委員

小学校同士仲はいいけど切磋琢磨できるライバルがいなくなってしまう、子ども達の

伸びしろも変わってくるのかなと思う。できれば今のままでいたい気持ちがある。

委員長

児童生徒の人数が今のままだいいのか。

委員

人数が減ってしまえば仕方がないと思うが、仲良しも必要だがライバルも必要、学校ごと勝負ごとで培うものがあるのではと思っている。

委員長

地域教育の話のなかで、学校がなくなっても、学校の文化を残していくことができる。子ども達の教育の中で地域性を残していく時に、何が必要だろうかを考え地域を残すのは建物だけではなく、都市施策のことについても考えなければいけない。スクールバスの比率の是正。通学環境をどうするか。

委員

統廃合には、メリットデメリットがあると思う。学校としては、安心安全で子ども達だけでなく、教職員がやりがいを持って働きやすい環境が必要。ハード面と人間関係、お互いに良い面良くない面を出し合いながら、より良い方向性に持っていきたい。統合の仕方いろいろあると思う。統廃合をした際には、末端でやっている職員は、デメリットもあると聞いている。

委員長

特別支援が必要な生徒増えているか。

委員

人数的には増えている。以前は、普通学級にいた子や、医療関係で判定をもらった子もいる。特別支援学級は、5、6年前は2クラスだったが、2、3年前から4クラスに増えている。全校生徒8%は、特別支援の子どもになっています。昔の特別支援学級の子と違い個性を持っている。一人の生徒に一人の先生がつかないと面倒が見切れない。

委員長

教員の加配を行っているのか。会計年度任用職員で対応なのか。

委員

教員の人数は決まっているので、町で会計年度任用職員を雇っていただいたりしている。昨今の教職員不足で4月から先生がいないこともある。

委員

先の委員と同じ意見である。職員の環境を聞いていくと難しい問題がある。

委員長

小学校の特別支援学級は何クラスあるのか。

委員

赤羽小学校特別3クラス、市貝小特別2クラス。配慮を必要とする児童増えてきている。加配があるが、足りない。休みになる先生も出てきている。他の町より町の加配が

多いと思うが、まだまだ足りない状況である。

委員長

適正規模がなされた際に小さい学校に手帳を持っている子が集まる傾向がある。統廃合を簡単に考えるのではなく、全体を見る必要がある。

委員

中学校1つしかないため、中学校の統廃合はいらないと思う。小学校3つある地区的にバランスが取れているが、小貝地区の生徒数は増えていかない。行政も人を増やしていくような対策を取っていけば増えていく。市塙はみどりの森がある。少数だから駄目でなく、特徴ある教育を周知すれば移住だけでなく、この町で教育を受けてみたいという方が出てくるかもしれない。施設の老朽化は何年も前から示されている。規模適正化であればバランスを考えて3つの学校が存在するのはありだと思う。

委員

統廃合すれば、お友達が増えると思うが、多ければよい少なければ悪いということではない。規模に関しては、少ないは少ないなりに学ぶことがあり、特色を生かす形でやっていく。統廃合をするにしても子ども達がどういう教育を受けられるのか、町がどんな人材を育てたいのかが大切。内容へのアプローチがあって、こういう予算で、こういう人口になっていくから先々は、こういう風にしていくと決めていける。地域と場所的に離れてしまうところは、地域が集まるコミュニティとして再利用していく。それが魅力的なまちづくりとなる。

————— 議事内容 (2) 終了 —————

5.その他

特になし。

6.閉会